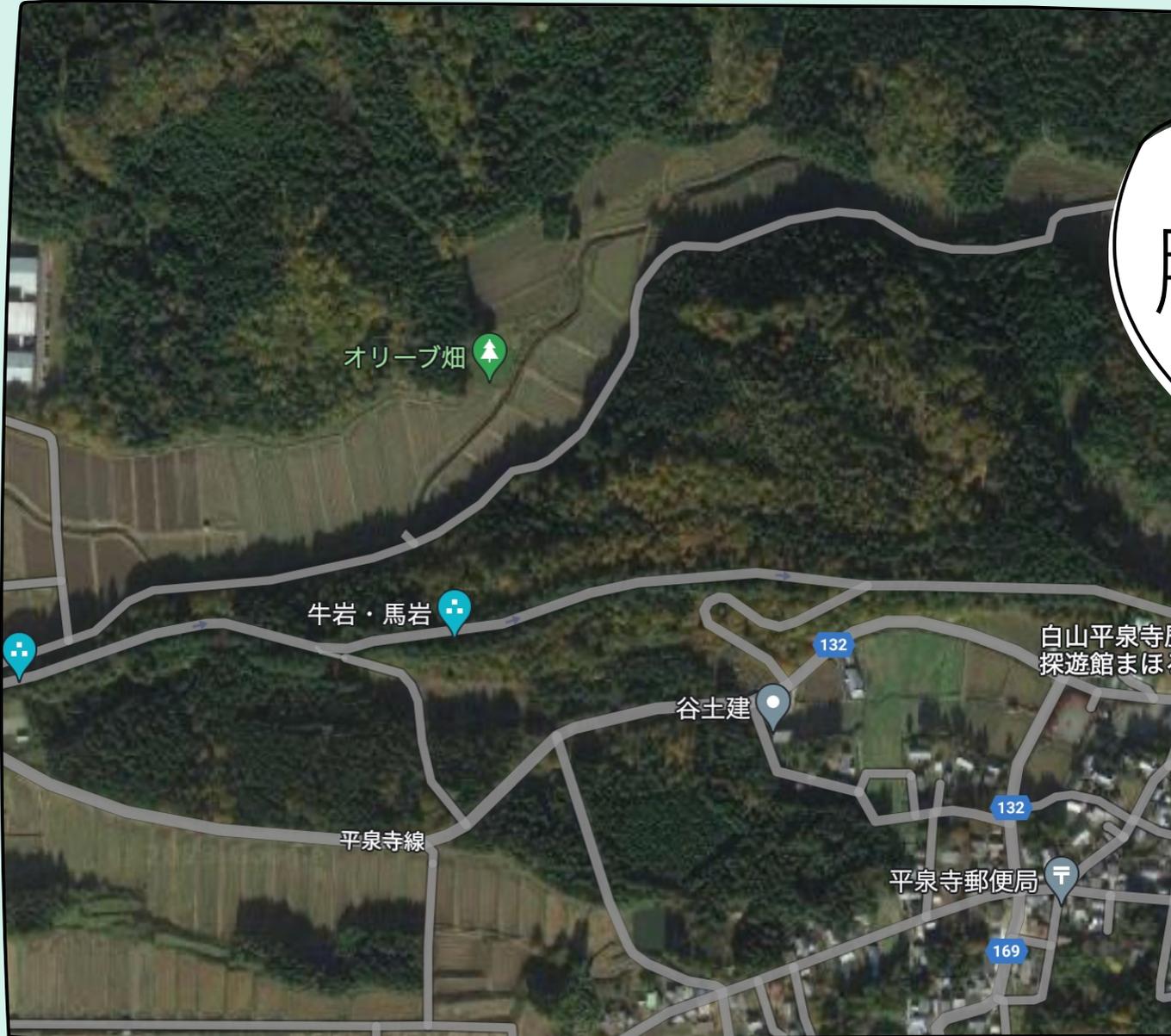




雪国勝山で オリーブを育てる

- ・積雪が多い地域でオリーブを育てる時の注意点
- ・寒冷地でオリーブを育てる意味

北



勝山の農地の特徴

東

今回植樹をした農地は、平泉寺の北谷に有る農地をお借りして植樹を行いました。南向き農地で日当たりが良く甘土の層が薄い土地です（水捌けが良い土地です）風は、一年を通して比較的良く通る土地だと思われます。積雪は今年は1 m以上積雪があったと思われます。

南

西

土づくり

勝山の土地は20～30cmの所まで地下水が来ていると考えられます。
そのため、今回水捌けの良い土作りと、畑造りを意識して作りました

『畑作り』

溝を掘り雨水が、履けるようにしました

『土づくり』

- ①牛糞（籾殻を多く入れ水捌けの良い土を意識しています）
- ②米ヌカを多く加えました（米ヌカは人間で言うオロナミンcみたいな活力剤の役割だそうです）
- ③舞鶴で頂いた牡蠣殻も植樹の時に設置しました。



緑色の濃さも違います
葉っぱの大きさも違います
生えてる、草の種類も違います

牡蠣殻効果

👉 牡蠣殻なし

牡蠣殻有り 👉

太陽と雨と風により分解され栄養が
土に染み込んで行っています。

半年経って風化が
始まった牡蠣殻です👉

👉新しい牡蠣殻です

6ヶ月過ぎて 牡蠣殻の様子





ホウレンソウは西アジアが原産で、15～20℃の涼しい気候を好み、寒さにとくに強く、0℃以下でも生育を続け、マイナス10℃程度まで耐えられます。

緑黄色野菜の王様といわれるほどに栄養価が高く、野菜の中では鉄分がダントツに多く、昔から貧血予防によいとされ、ほかにビタミンやミネラルも豊富に含み、風邪の予防にも効果的です。

冬に栽培すると、霜や寒さに当たって葉肉が厚くなり、糖度が高くなって甘い濃厚な味を楽しむことができます。

寒さに強い品種は 成分も濃い

寒さに強い植物は凍結から身を守るために糖分を濃くする傾向がある。

暖かい地域で育てた苗木を寒冷地に持ってくるとうまく育ちにくいそうです。逆に寒い地域の苗木は暖かい地域に持っていても問題はないそうです。

植物には「凍りにくくなる」しくみ 耐凍性（たいとうせい）

戦略① まずは冬支度 ～低温馴化（ていおんじゅんか）

植物の0℃以上の凍結しないほどの低温（2～4℃）や日長の変化など



細胞内に多くの糖類やアミノ酸、タンパク質などが蓄えられるというの。

（例がホウレンソウで、冬に葉を広げるホウレンソウは甘くて美味しくなる。これは細胞の中に糖類などを蓄えているからで、ホウレンソウが低温を耐え抜く）

植物の戦略② 内部は凍らせない

最初に氷の結晶ができるのが、細胞間のすき間や、あるいは細胞壁（細胞の中に糖類やアミノ酸など様々な物質が溶けているから）

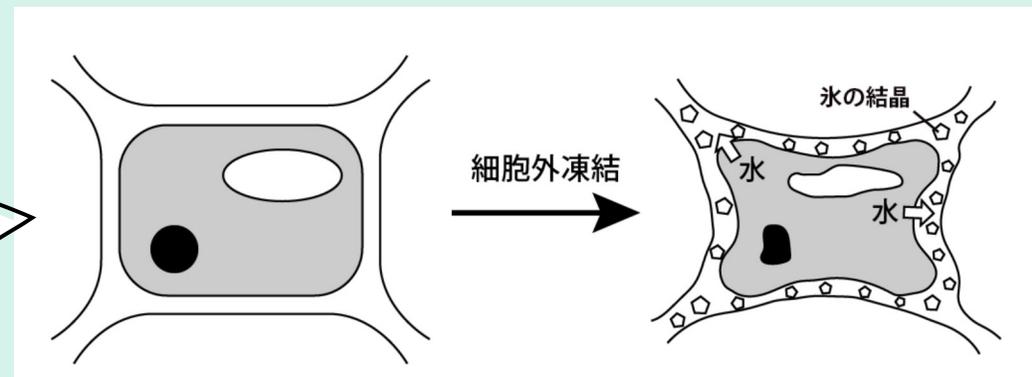


氷の周りの水は、氷に引きよせられていく性質がある



細胞内は脱水状態となるので、ますます凍りにくくなる

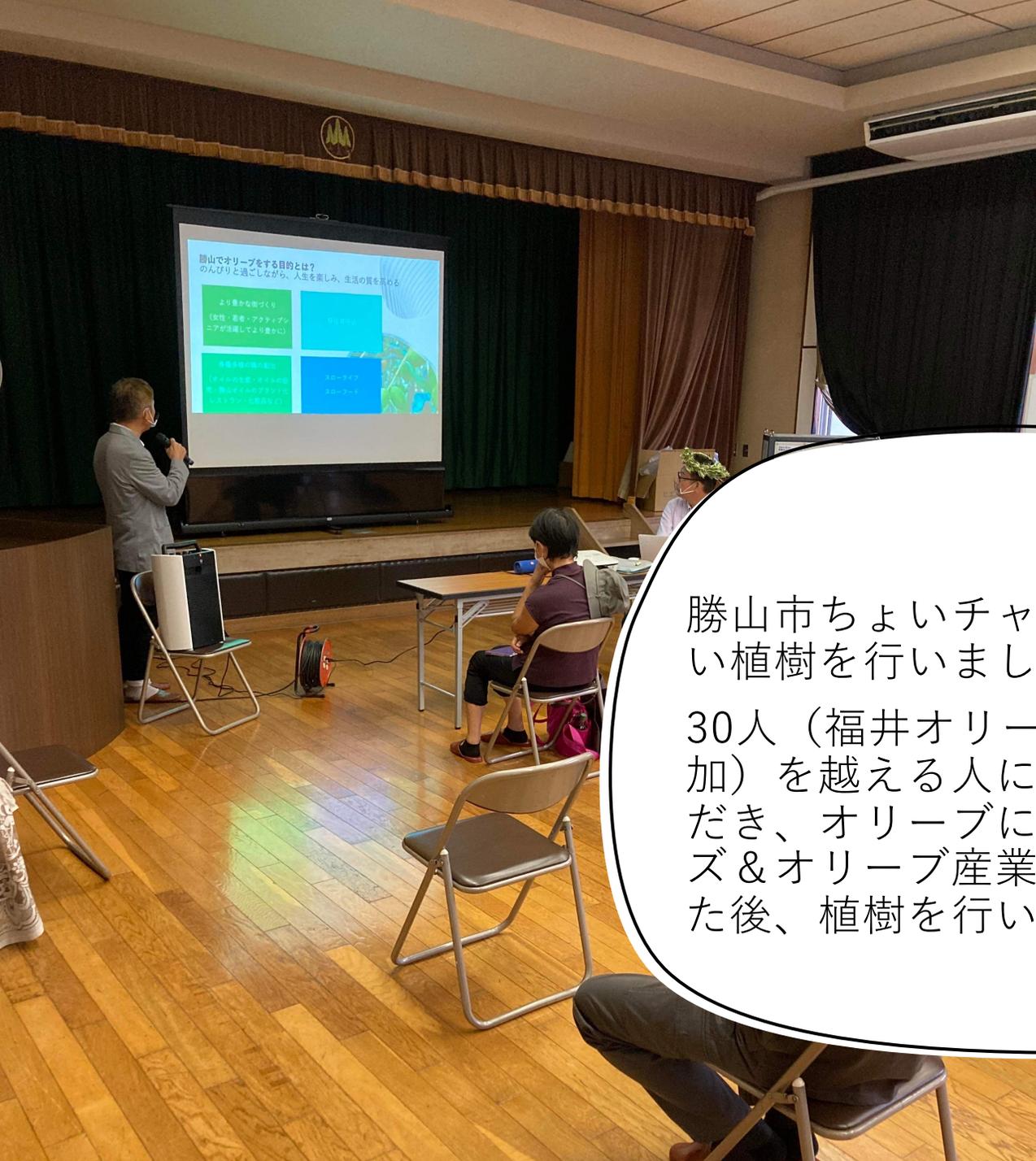
『BuNa』のHPより





購入した苗木・福井大学のオリーブの木の剪定した枝を使用して挿し木にもチャレンジしました。寒い地域で育てた苗木の生産は濃い養分を持った苗木になることを期待しています。

苗木の生産にも挑戦しました。



植樹 (9月3日)

勝山市ちよいチャレの事業を使い植樹を行いました。

30人（福井オリーブ研究会6人参加）を越える人に集まっていた
だき、オリーブについてのクイズ
& オリーブ産業の説明を行った
後、植樹を行いました。

冬支度 11月5日寒冷紗 巻き付け

寒冷紗を支柱に巻き付け上・真ん中・下の3箇所を麻紐で縛り、風でバタバタしないように設置しました。





大雪の後（2月15日）

今年の積雪は1mを超えていたので、木は埋もれていました。

しかし、1本だけ枝が折れていましたが大きなダメージもなく、元気に育っています。

春に向けて木は養分を成長の方に使い始める3月・4月には越冬用の糖分が減ってしまい、1月2月だと問題ない寒さでも春先の遅霜には弱いと聞くので、このまま4月いっぱい寒冷紗はこのまま設置しておきたいと思います。



この商品について

- 天草オリーブ モイスチャーローション
- 保湿成分（アミノ酸誘導体ナールスゲン）が、ハリを与え、コラーゲン、プラセンタ、ヒアルロン酸などの美容保湿成分とオリーブ葉エキスがお肌をしっかり保湿し、つやのある潤い肌へ導きます。
- ほんのりローズの香り
- 内容量：180ml
- 天草オリーブディープエッセンスとセットで使用する【サンドイッチケア】がお勧めです！

昨年天草のオリーブ園で購入した化粧水・リップクリーム購入がなんともしっとりとした肌になり快適に冬を過ごすことができました。

いろいろな有名な成分が入っていますが、オリーブ葉エキスがいいような気がします。

ここが、寒冷地で育てたオリーブでいい結果が出てくれるといいと思っています。

**オイルだけではない
オリーブの魅力**

オリーブの葉エキスについて(オレウロペイン)

- アンチエイジング
- 黒色メラニンの抑制
- 肌色メラニンの生成
- コラーゲンの生成の補助

長寿で知られるオリーブの樹。その生命力の秘密は、枝や葉にもありました。
厳しい自然の中を生きのびるオリーブの樹には様々な成分があることがわかりました。

命を守り、命をつなぐために



オリーブの枝、葉にはポリフェノールが含まれています。中でもオレウロペインという成分には殺菌・抗菌作用があり、バクテリアや害虫から樹を守る効果があります。

枝、葉、オリーブの樹すべてが、オリーブの生命力を高めるためにそれぞれの役割を果たしているのです。

オレウロペインとスキンケア

オリーブは何世紀も前からスキントニックなどの化粧品としても使われてきました。オレウロペインには高い抗酸化作用があるため、アンチエイジングの効果が期待できます。いわゆる「肌の酸化」を防いでくれるのです。さらに、オレウロペインが分解されてできるヒドロキシチロソールは、シミの原因となる黒色メラニンの生成を抑え、透明感のある肌をつくる肌色メラニンの生成を促進するので、美肌・美白ケアにも有効です。また、ハリのある肌を維持するのに大切なのはコラーゲンですが、そのコラーゲンの生成を補助する働きもあります。

オレウロペインは、健康で美しい肌を維持するために大活躍してくれる成分なのです。

果実のうるおいに枝と葉の成分が加わった化粧水



小豆島産のオリーブオイルを搾った後の果実から抽出した「オリーブ果実エキスBG-30S」を50%配合!オリーブの葉・枝エキスはもちろん、保湿力の高い「セラミドNG」や「ヒアルロン酸Na」、バリア機能を高める「ナイアシナミド」など美容成分も新配合しました。さらりとした使用感で肌のなじみがよく、ぶるんとしたうるおい美肌へと導きます。

まとめ・課題

雪で鍛えたオリーブを生産する事のメリット、同じ種類でも寒さにより強くなることを生かした。

(木の成分が濃くなること)

- ・オリーブオイル
- ・オリーブ葉エキス
- ・オリーブ苗

などの栄養分のバランス・濃度などに変化を見つけていきたいです。

今後は、研究開発・商品化を進めていくことの出来る、福井オリーブ研究会・福井大学・福井県企業との連携が望ましい。

9月の植樹に協力していただいた方々に感謝します

福井オリーブ研究会 役員： 山田 晋洋（未来の種代表）